

東京

「其の日」暮らし

＝ドイツ編＝



バスの罰金 前編

本格的な冬に入るこの季節。バザーや収穫祭などの催しが至る所で開かれています。先週行った「Canstatt Festival」では移動遊園地やビール会社の巨大なロッジがたくさん出店されていました。お天気が良く暖かかったので、「これだけの人がどこにいたのか？」と思うほどの大混雑。ドイツに来て初めて見た人混みでした。そして私たちはあまりの人の多さに疲れて早々と会場を退散。近所の公園でのんびり過ごしていたのでした。

さて、ドイツの電車やトラムには改札口という物がありません。長距離電車になると車掌さんが検札に回ってきます。バスの場合も入り口が3カ所もあるので切符を持っていない人も乗車が可能になるのです。また、バスもトラムも電車も共通の切符なので一度目的地までの区間の切符を買うことで乗り換え時にそのまま乗車が出来ます。改札がないのだから無賃乗車が可能？ということではありません。回数券を使う場合は車内やホームにある刻印機で時間を刻印しなければなりません。私服を着た検札係が抜き打ちチェックをしにくるので改札口が無くてはまうのです。見つかった場合はもちろん罰金。バスや電車が動き出した直後それまで乗客の様にして乗っていた検札係が突然身分証を見せ「切符を確認します」と来るのです。最初のうちは切符を買っているのにもかかわらずドキドキしましたが定期を買うようになって動じることが無くなってきました。ここに落とし穴があったのです。実は先月捕まってしまいました。当時、息子が水疱瘡にかかり1週間ほど外出が出来ませんでした。その間に定期が失効していた事をすっかり忘れていたのです。買い物をした帰りのバスのことです。バスに乗り込んだとき目の前に座っているおじさんがバス会社の紋章入りの上着を着ていたので検札係だと思い定期の準備をしていました。案の定、その人が身分証を見せたので定期を出そうとした時に定期が失効していることを思い出したのです。血の気がサーと引いていくのが分かりました。「どうしよう！40ユーロの罰金や!!」と泣きそうになりましたが検札係は

淡々と質問をしてくれます。「捕まったのは初めてか？住所と身分証明書を見せて。定期が失効してから2日も経っているじゃないか」と。私の方は質問に答えながらも「子供の病気で定期買うの忘れていたなんて言い訳、病み上がりに見えないくらいに元気な息子を見たら信じてくれなйдらうなあ・・・」など思っただんどん落ち込んでいきました。ちょうど定期を買い戻すので「いまから定期を買い戻します」



バス車内にある刻印機

と言って検札係と一緒に一旦降りることにしました。私のあまりの落ち込み様を見て「大丈夫たいしたことじゃないよ」と慰めてくれましたが「私にとっては大問題だ（特に金銭的に）」と答えるだけで精一杯。ここでは罰金は10ユーロ払いました。別れ際に彼は「この後は良い一日になるように」と言って握手をして去っていきました。私もそう願うけれど残り30ユーロを払うことを考えるとドヨンとしてしまったのでした。PUKPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞